

<机差岳朝日に映えて⑫ 令和6年9月24日>



ぶんぶふき 文武不岐

教育長 津野庄一郎

9月14日、心配した雨もあがり、関川中学校の体育祭が、多くの保護者・地域の方々が見守るなか開催されました。ぬかるむ200Mトラックを、力いっぱいバトンをつなぎながらひた走る生徒の姿に、教育委員の八幡さんも「子どもたちはよく走るな～」と絶賛。特別棟三階から吊り降ろされた2400枚余の台紙からなるモザイク画「飛べ」は、生徒の協力と団結の証。こうした美術作品や当日の運営【文】、熱い競技や応援【武】が一つになり、素晴らしい体育祭を創り上げていました。生徒の頑張る姿は、日頃の教師の働き掛けの裏返し。櫻井校長先生はじめ全教職員の親身で温かい指導・支援に感謝です。ふるさとの未来ある子らの躍動する姿を見ていたら、50年ほど前、グラウンドで雨の中、駆けていた自分たちの体育祭を思い出しました。

さて、この4月に行われた「全国学力学習状況調査（小6、中3）」における、関川の子どもの結果（平均正答率）は、国語は小中とも新潟県全体を2～3ポイント上回り、算数・数学はおおむね県並みでした。特に小学校は、各教科の基礎となる国語の「読むこと・書くこと」の項目が、中学校は「話すこと・聞くこと・読むこと」の項目が高いこと。「新聞を毎日読んでいる」と回答した子が、小中とも県より5ポイント以上高いこともわかりました。本村の特色ある書道教育や朝読書をはじめ、活字に慣れ親しませるインプットとアウトプットの活動を、全教科通じて適切に行っている現れであるにとらえています。「生徒質問紙」では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに、中学生は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と100%肯定的に回答しており、情意面の成長が光ります。

一方、課題は「メディアコントロール」です。これは関川っ子に限ったことではありませんが、家庭学習の時間よりも、SNSやゲーム・動画視聴の時間が非常に長いということです。全家庭で子どもの「起きる、寝る、家庭学習の時間」を習慣化する、いわゆる「三点固定」が確実に実施されるようお願いいたします。

「文武不岐」は、「文武両道」とは違い、勉学も、運動・スポーツも別々のものではなく、一体となり学び続けていくことです。この精神を大切にしていきたいものです。

【写真】左：選手宣誓 右：モザイク画と応援パネル